

学位論文審査の要旨

学位申請者	徳岡(原) みなみ 2020年3月単位修得退学	論文題目	プロバレエダンサーにみられるキャリア実践の自己認識 —ダンサーの言説の質的分析から—
審査委員	主査: 水村 真由美 教授	インターネット 公表	学位論文の全文公表の可否 : 否
	副査: 天野 知香 教授		「否」の場合の理由
	副査: 井上 登喜子 准教授		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員: 神田 由築 教授		<input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員: 岡 千春 助教		<input type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博士 (学術)		<input checked="" type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
(英語名)	(Ph. D. in Dance Studies)		<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
			※本学学位規則に基づく学位論文全文の インターネット公表について

学位論文審査・内容の要旨

本研究は、舞台上で上演される芸術領域のひとつであるバレエに着目し、プロバレエダンサーが幼少期から訓練をはじめ、技能を認められてバレエ団に所属し、プロダンサーとして日々の上演活動を繰り返す中で、日々の実践からプロバレエダンサーというキャリアを自らが認識していく過程を、文献研究および主役級のプロバレエダンサーへの半構造化インタビューで得られた言説に対し、質的分析を行うことにより、そのキャリア実践における自己認識を明らかにすることを目的として行われた。論文は4章で構成され、1章は過去に活躍したプロバレエダンサーの手記や書籍といった文献研究からバレエダンサーが訓練をはじめプロダンサーになる過程を検討し、特に主役級のダンサーとして活躍したダンサーの事例に当たった。2章では、バレエだけでなく、他の上演芸術を対象として、プロや技能の高いレベルに達する過程、すなわち熟達化について、人文社会科学系のみならず自然科学系も含めた様々な学問領域での先行研究に当たると共に、日本の伝統芸能での熟達化を象徴する概念としての守破離から論じた先行研究に依拠し、バレエでみられるプロに至るキャリア形成の独自性を考察した。2章で考察したプロバレエダンサーのキャリア形成にみられる特徴を研究視点とし、3章においては、主役を演じたことのある日本人プロバレエダンサーへの半構造化インタビューを行った。得られた言説をSteps for Coding and Theorization (以下、SCAT)を用いて分析し、プロダンサーのキャリアにおいて、特徴的な要素(理論記述)と、それらの要素を文脈として捉えたストーリーラインを著者が作成した。その結果、プロバレエダンサーの日常的な実践、表現と独自性に対する認識の形成、プロバレエダンサーとしての立場と役割に対する認識という要素が抽出された。4章では、1および2章での文献研究、3章の主役を踊った経験のあるプロバレエダンサーの言説の質的分析から得られた結果を総合的に考察した。その結果、プロバレエダンサーのキャリア実践は、公演活動の継続と階級に特有の実践を通して、スキルや知識の獲得と体験的理解の形成を繰り返す過程であり、特に主役を演じる上位階級のダンサーに至る過程では、階級ごとの実践・役割への従事、自己認識の明確化が実現することが、プロバレエダンサーというキャリアの発展に寄与することが明らかとなった。

審査は三度実施された。第一次審査は2023年2月22日に実施された。審査では、先行研究を踏まえての考察においていくつか課題が散見されることや、質的研究から得られた結果について、個々の事例に当たった表記も必要といったコメントが寄せられ、改善の余地があることが指摘された。研究題目についても第一次審査において審査員から新たな提案が出された。申請者はそれらのコメントを踏まえて修正を行った。2023年4月13日に実施された第二次審査では、軽微な修正はあるものの、審査委員全員から、公開発表会、最終試験に進んでよいとの判定を得た。最終試験は2023年5月18日(木)に、公開発表会、最終審査会を実施した。公開発表会は対面で実施され、教員、大学院生が参加するなか、40分の博論に関する口頭発表と、それに関する約20分間の質疑応答とが実施された。申請者は、論文の内容を図表を交えてわかりやすく説明し、その後の質疑応答でも、質問者からの質問に対し、丁寧かつ的確に回答していた。また研究の限界についても十分に理解し、申請者の今後の研究における課題についても理解していることが確認された。

公開発表会の後に実施された最終審査会は、第二次審査でのコメントを踏まえての修正原稿の内容、及び公開発表会での発表・質疑応答の内容が審査された。本研究は、長い時間をかけて修得する基礎技能の上にならって、日々の舞台での上演活動を実践とするバレエにおいて、特に主役を演じるプロバレエダンサーにおけるキャリア実践の様相を、ダンサー自身の言説を質的に分析することにより自己認識の変容を客観的に検証した点において、その独自性および新規性が評価され、博士(学術)(Ph.D. in Dance Studies)の学位が付与されることが満場一致で承認された。